

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400515		
法人名	有限会社ワオン		
事業所名	グループホームわおん(1号店)		
所在地	羽島市上中町中708-1		
自己評価作成日	令和2年8月5日	評価結果市町村受理日	令和2年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400515-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自然に囲まれたのんびりした場所にあり、利用者は落ち着いて生活が出来る環境である。利用者本人の希望の場所に出掛けたり、やりたい事が出来るようにしている。季節事の行事にも力を入れおり、節分、雛祭り、母の日等開催することで、季節感を味わって頂ける様にしている。スタッフは皆介護の仕事に誇りを持っており利用者本人の立場になり支援を行っている。また、スタッフ同士仲良く、楽しく仕事に取り組んでいる。グループホームで生活していても、自分の家と同じように暮らしていけるように生活感溢れる暮らしを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内に「ありがとう」の言葉が飛び交う様子からも、代表と職員、利用者の信頼関係が良好であることが感じられる事業所である。敷地内にある広い畑で、利用者の農業経験を活かして野菜を作り、それらの食材が食卓を賑わしている。また、日々の暮らしの中でも、利用者が役割を持てるよう工夫し、残存機能の維持向上につなげている。法人全体でも、様々な交流を積極的に行いながら、地域密着の運営に努めていたが、現在は新型コロナウイルス感染症予防対策の為、外部との交流を自粛している。家族の面会やドライブなどは、工夫をしながら実施し、セラピー犬や猫、金魚の存在も利用者の心の癒しとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1号店)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、申し送りの際、会社理念、スタッフ行動規範を読み上げ常に意識出来るよう心がけ実践に繋げている。	法人理念と共に、「スタッフ行動規範10ヶ条」のカードを携帯して毎日唱和し、意識して理念の実践をしている。全職員で理念を共有し、利用者の笑顔を引き出せるよう努めており、「ありがとう」の声があちこちから聴こえてくる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の馴染みの店に買い物に行き、地域の方と交流が出来るようにしている。	夏祭りや文化祭など、地域の行事や祭りに参加し、事業所では地域のボランティアや学生の職業体験などを受け入れ、地域との交流を深めている。現在は、新型コロナ感染予防対策として、様々な交流が中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年一回「介護感動事例発表会」を開催している。地域の方々に介護の仕事の良さ、認知症について知って頂く発表会となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催し、行事報告や予定、事故・ヒヤリハット報告をして意見交換しそこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在は、新型コロナ感染予防対策として、運営推進会議開催を中止している。通常は、行政担当者・区長・民生委員・老人会会長・議員経験者等の参加もあり、「地域福祉を考える会」として会議を開催し、意見交換をしながらサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で高齢福祉課の方と交流している。月一回の介護相談員の方が来て下さり、ご利用者の相談にのって下さっている。	行政担当者とは、事業所の現状や空き状況などを報告、相談し、協力関係を築いている。月一回の介護相談員の訪問は現在中止している。行政からメール配信されている情報や対策についての資料を活用し、運営と支援に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、職員にはヘルパー会議の場での勉強会を通して身体拘束について、正しく理解出来るよう指導している。玄関の施錠も拘束にあたる事を説明し外に出たい方にはさりげなく付き添い、落ち着ける様工夫している。	安全衛生委員会及び介護技術向上委員会を開催している。また、ヘルパー会議(職員会議)で報告と勉強会を行いながら、身体拘束について正しく学んでいる。また、管理者と職員は、日々のケアで気づいたことを話し合い、対応策を検討しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ヘルパー会議などで、高齢者虐待について話し合い、身体だけでなく言葉などの虐待もある事を理解し、防止出来るよう努めている。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成人後見人制度の利用はない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分説明させて頂き、利用者やご家族等の不安や疑問点を尋ね、納得していただいてから契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族のご意見は来所された時やお電話頂いた際に聞かせて頂き、職員間で話し合い運営に反映させている。	家族の面会時や、電話、メールなどで意見や要望を聞き、運営に反映させている。現在、感染予防対策として、面会は玄関で行い、ビニールシート越しに対面しているが、家族の希望でテレビ電話での対応も行っている。県外の家族とは電話や写真付きの手紙を送り、利用者の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダー会議が設けられており、各事業所リーダーは事業所取り組みやヘルパー会議にての意見を報告し合い、意見交換をしている。各事業所の希望、問題点などその場で話し合う機会がある。	職員が自由に意見が言える環境であり、所属している委員会の会議でも、自分の意見や提案を出すことができる。緊急性のある内容についてはリーダーから管理者に報告し、速やかに対応するなど、職員の意見に真摯に向き合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、各自向上心を持って働けるようスタッフの意見に耳を傾け、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では四つの委員会を作り職員皆が入っており委員会事に研修を開催する予定。又、法人外でも研修を受ける機会を確保し、職員のスキルアップにも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携事業を通して、他事業所との交流の機会がある。「介護感動事例発表委員会」の場では他事業所と協力して発表会に取り組む事でサービスの質の向上を目指す。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話中で、困っている事、不安な事を感じとり要望に応えながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族は今までの介護を通し、困った事や不安を抱えている。又、入所の際も不安を感じている為、安心して頂けるよう入所初期は特にこまめに連絡を取り、要望、ご様子等をお話して信頼関係を築いていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族、ケアマネとの面談を設けサービスに関する要望を伺い、そこから必要としている支援を見極め支援を進めていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人は人生の先輩であり、学ぶことも多く、常に色々な事を教えて頂いている。不自由な部分を支え支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人はご家族にとって大切な存在でありご家族にしか出来ない事がある。本人とご家族の絆を大切に、共に本人を支える温かい関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブを兼ね本人馴染みの場所に出掛けしている。親友、親戚の訪問時にはゆっくりと会話して頂けるよう環境提供している。	家族や親戚、知人等の訪問を歓迎し、馴染みの場所や喫茶店へ行くなど、関係継続を支援している。現在は、新型コロナウイルス感染予防に努め、外出支援を自粛しているが、ドライブで馴染みの場所に行くなど、利用者の気持ちが落ち着けるよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人ひとりの性格を把握しており、利用者同士の間人間関係についても把握している。一人ひとりが孤立しないよう行事、レクリエーションなどで良い関係性を築けるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了は本人他界によるもの、医療行為が必要になったものですが、これまでの関係性を大切にしながら必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援につとめていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の会話から、利用者の希望や意向の把握に努めている。困難な利用者には毎日のケアの中で気付きを大切にしている。	職員は、日頃から利用者が話しやすいよう声かけし、生活歴や趣味を尋ねたり、入浴支援時や夜間の支援時にさりげなく思いや意向を聴いている。それらの情報を職員間で共有し、本人本位の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からお聞きしたり、以前に介護サービスを利用していた方は事業所からも伺うようにしている。又、会話の中から生活歴や馴染みの環境、生活環境を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日個人別介護記録を記入し情報共有している。有する力等の現状の把握をする為に、介護記録やヘルパー会議を活用し情報の共有につとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望、そしてご家族にもご本人がどの様に施設で生活して欲しいかをお聞きしている。担当者が三ヶ月事にモニタリングを行い、全スタッフ、主治医にも現在の支援の在り方について聞き、ヘルパー会議にて話し合いケアマネが現状に即した介護計画を作成している。	担当職員が、本人・家族の意向と介護記録をもとに、三か月毎にモニタリングを行っている。家族や医療関係者の意見も参考にし、全職員で話し合い、ケアマネジャーが利用者の状況に合わせた介護計画を作成し、家族の同意を得て実践に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護支援経過に日々の様子やケアの実践状況、気づき、工夫を記録すると共にヘルパー会議、申し送りで情報共有しながら実践や介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	住み慣れた地域をドライブしたり、買い物に出掛けたり、ランチに出掛けたりして一人ひとりに柔軟なケアができるようつとめている。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アセスメントした上でその方に必要な社会資源の把握に努め、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が望むかかりつけ医を自由に選んで頂いています。その為、入所前からの状況を医師が把握しており、施設ともスムーズな情報共有、連携がとれている。	契約時に、かかりつけ医が選択できることを家族に説明している。協力医や従前のかかりつけ医の往診や通院と訪問看護等で、利用者の健康管理を行っている。医療関係者の助言や情報を全職員で共有し、利用者や家族が安心できるよう、24時間の医療連携体制で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な事、異変があった場合主治医、職場内看護師に相談し支援している。訪問看護も月一回往診して頂いており、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会細やかにいき、担当医師や看護師と面会し病状把握に努めている。退院時のカンファレンスにも参加し、かかりつけ医との連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りを行っている旨お伝えしている。終末期はご家族の希望を尊重し、その方やご家族の望む終末期になるよう支援している。	契約時に重度化や終末期の対応について事業所の方針を説明し同意を得ている。状態が変化した場合、早い段階で関係者が話し合い、利用者と家族の希望を尊重し、看取り介護の研修も重ねている。医療行為が必要な場合は、利用者や家族が不安のないよう、病院移行の支援も行っている。	重度化した場合の支援や看取りケアの経験が豊かな職員が多い。これまでの事例を活かし、経験の浅い職員も、不安なく終末期ケアの対応ができるよう、研修を重ね、今後も利用者や家族の意向に添える支援が行われることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し備えてはいるが、全ての職員が応急手当、初期対応の訓練を毎年開催しもっと実践力を身に付けたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回火災や地震等の避難訓練を開催している。昼、夜の時間帯を交互に想定し開催している。運営推進会議にて意見交換会をし状態収集し、地域との協力体制を築いている。	年2回、夜間想定も含めて、ユニット毎に防災訓練を実施している。消防署の指導や運営推進会議での意見交換や助言を受け、マニュアルの確認をしながら、あらゆる状況においても適切に対応できるよう、災害対策について話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、声掛けにはスタッフ一同皆気を付けている。申し送りにて社内行動規範を読み上げ、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。	職員は、常に声のトーンや言葉遣いに注意して利用者と接している。申し送り時には、行動規範を唱和して確認し、利用者の人格を尊重した支援を心がけている。また、介護技術向上委員会の委員が中心になり、注意喚起し合うことで、利用者から「楽しい」の言葉が聞けるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と話しやすい関係を築き、思いや希望を言いやすいよう環境作りをしている。自己決定の難しい利用者にはこちらから提案したり、選択制にするなど、自己決定する場を設け自分の思いをつたえれるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、利用者の思いに添った支援が出来るよう心掛けている。一人ひとりのペースを大切に、したい事をお聞きし希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアークットは職員がさせて頂き、本人に要望を聞きカットしている。洗顔後には化粧水をつけたり、整髪剤をつけたりして身だしなみ、おしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望のメニューを伺い、利用者も一緒に下さりえ、片づけの手伝いをしている。朝、昼、夕三食共にホームで調理し、職員も同じ食事を一緒に食べ会話を楽しみながら利用者の個々のペースで食事している。	利用者の希望を聞いたり、事業所の畑で収穫した野菜も食材にして調理をしている。利用者も準備から片付け作業の中で、できることを手伝っている。職員は、利用者の状態や食べるペースに合わせて、一緒に会話を楽しみながら、食卓を囲んでいる。	職員は、朝・昼・夕の食事作りを、利用者が役割を持って、準備から片付けまで楽しく行えるよう支援し、残存能力の維持につなげている。今後も食事の一連の取り組みの継続を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎日記録している。水分摂取量少ない利用者は別紙にて記録し、お茶が苦手な利用者には好きな物で摂取して頂き一日の水分量確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じて見守り、仕上げ磨き、口腔介助をしている。歯科医との連携もとれており、分からない事を質問しケアの向上に努めている。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を決め声掛けをし、トイレにて排泄出来るよう支援している。排泄の訴えのない方でも時間を決め座って頂く事で、トイレにて排泄出来ている。	利用者の排泄状況を記録し、プライバシーに配慮しながら声かけや誘導を行い、排泄の自立が維持できるよう支援している。排泄用品は、利用者の状態に合わせて、日中と夜間、適切な用品を選択して、おむつの使用を減らすことができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材、乳製品などを取り入れ便秘にならないよう気を付けている。便秘日数を常に把握し便秘体操、散歩等をして運動している。便秘日数によっては便秘薬で調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週三回(月、水、土)と決まってはいるが、健康状態や本人の希望を優先し、無理のない対応をしている。入浴は利用者とスタッフが一对一となりコミュニケーションがとれる大切な場である為、シャワー浴、足浴等個々に添った楽しい入浴タイムとなっている。	入浴は週3回を基本として支援し、利用者とのコミュニケーションを図る場としている。支えが必要な利用者には、職員2人介助で、安全に浴槽に入れるように支援している。畑作業後にも、シャワー浴や足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	バイタルチェック、顔色、表情は常に気を配っており、状況に応じて休息して頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	くすりが処方されるとスタッフが確認し、管理している。個人ファイルに服薬情報が入っており職員はそれを見る事で目的、副作用などを知ることができる。服用時はスタッフが日付け、名前を確認後手渡しをし、飲み込みもしっかり確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者には個々に合った役割を決め、食器拭き、床拭き、洗濯畳み、裁縫、作品作り等その方の生活歴、力を活かした支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は利用者の健康状態に合わせて、利用者自ら、他の利用者の車椅子を押し散歩をしている。普段行けない場所では事前準備をしっかりし外出支援をする。	毎日の散歩や地域の行事への参加など、外出支援を積極的に取り入れていたが、現在は、感染予防の為、外出を自粛している。庭や畑での作業で気分転換を図ったり、ドライブも、車からは降りずに、景色を眺めて四季を感じられるよう工夫している。	

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布はスタッフがほぼ管理していますが、希望・力のある方にはお金を所持して頂き自由に使用して頂ける様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話して下さい」の要望には応じますが、時間的に難しい深夜、早朝などは本人が納得できるよう声掛けしている。手紙のやり取りはないが、年賀状はできる方には書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は清潔感を心掛けていると共に、整理整頓に気を付けている。玄関やホールの壁には利用者と一緒に作った季節に合わせた作品を展示している。	共用空間の壁面には、季節感あふれる利用者と職員の共同作品を掲示している。また、各ユニットの特色を出した共有空間づくりもしている。居間の掃除は、利用者も関わり、整理整頓された清潔な空間である。セラピー犬や保護した猫、水槽の金魚も利用者にとって、癒しであり、穏やかに過ごせる工夫が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者はほとんどホールですごしていますが、独りになりたい時はそっと見守っている。立ち上がりが無理なく出来るように肘掛け付きの椅子に座って頂き、人の手を借りず自由に立ち上がり行きたい所に行く事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具、椅子を持ち込み本人が使いやすいように配置し、家族の写真や本人の作品を飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室の窓は大きく、外の景色を眺めながら過ごすことができる。使い慣れた家具を持ち込み、動線に配慮して配置している。家族の写真や思い出の作品、職員からの手づくり色紙などを飾り、整理整頓しながら、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉の上には本人の名前が貼ってあり、自分の部屋だと認識出来るようにしてある。また、トイレ、風呂場も分かるように壁に表示してあり迷わず行けるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2174000515		
法人名	有限会社ワオン		
事業所名	グループホームわおん (2号店)		
所在地	岐阜県羽島市上中町中705-3		
自己評価作成日	令和2年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2号店)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念と社員行動規範の書かれているクレドをば全員のスタッフが、持っている。午前の申し送りと午後の申し送りに出勤スタッフ全員で、読んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏まつり、秋の文化祭には参加させていただいている。 今年は、新型コロナウイルスで、地域の方との交流が出来ていません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年1回、岐阜県の他の事業所と協力しながら、介護感動事例発表会を開催している。地域の方々に介護の仕事、認知症について理解を広げようと、取り組んでいます。今年の感動事例発表会は、コロナウイルスの影響で、延期している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所で開催した行事、出来事などを報告している。災害等の避難情報の交換している。現在は、コロナウイルスの為開催していません。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、民生委員、元羽島市議長、羽島市役所の職員も参加した頂いている。コロナウイルスで、現在ボランティアさんなどの受け入れを中止している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実現するためにスタッフは、社内研修やヘルパー会議で話し合っている。施設の玄関は、施錠せずに開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ヘルパー会議や社内研修で、取り上げて確認している。言葉使いなどにも注意している。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度の対象者は見えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、十分に話し合いをさせていただき、利用者様と家族様に理解・納得をして頂いてから契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族様の参加・来所された時にご意見やご希望を聞かせていただくようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回リーダー会議を開催して、事業計画の報告、意見交換をしている。各事業所の意見交換もしている。リーダー会議での内容は、ヘルパー会議にて報告して共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが、意見の言いやすい環境に心がけている。個々の個性を活かせる環境にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、委員会を作成し研修を開催している。新人スタッフは、ベテランスタッフを指導者にして指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携事業を通じて、他の事業所と連携したり、社会福祉協議会の会議(半年に1回)に参加させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の全てを受け止め、困っていることや不安なことを会話の中から明確化していき要望にお応えする中で信頼関係を築いている。利用者が話しやすい環境を整えて、安心が確保出来るような関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族は今までの介護と今後の生活について不安を抱えている。導入段階では特にこまめに連絡をとり不安なこと等受け止めて要望にお答えする中で、信頼関係を築いていき、安心して任せて頂けるような関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族、スタッフとの面談場所を設け、要望やサービスに関する要望を伺い、必要とされている支援を見極め、他のサービス利用の支援も勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、学びも多く助けてもらうこともある。尊敬の念をもち、支援させて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族にしか出来ない大切な役割があることを知っている。ご家族との絆を大切に連絡をとり、来所された時は利用者を交えての会を大切にしている。ご家族に協力して頂くこともあり、感謝を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の行きたい場所、馴染みの喫茶店、生まれ育った街、昔からのお友達とのお出かけは個別ケアとしてケアプランにあげて実行している。散歩時に顔見知りになった近所の方からお野菜を頂いたりお礼を持っていき交流をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者の性格や認知度、病気を理解した上で双方のコミュニケーションが上手くとれるように間に入り支援したり、外出やレクリエーションを通してお互いの発見や絆が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が他界された後でもご家族から連絡を頂いたり、果物や野菜を持ってきて頂ける。いつでも相談、支援出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から利用者の思いや希望を把握し職員間で共有している。会話が難しい利用者には表情やしぐさから感じ取っている。利用者のプライバシーに配慮し、会話する時は時間や環境に気をつけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人にお聞きしたり、ご家族には専用の用紙にご記入して頂いている。そして、以前利用していた事業所、病院、市役所からも情報を得ている。また、入所後も会話の中から生活歴や馴染みの暮らし、生活環境を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントしてどのように過ごしたいのかをお聞きしている。日々変化される利用者には、有する能力が発揮出来るようにヘルパー会議で話し合ったり、関係事業所からお聞きして現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、ご家族に意向をお聞きしている。担当者は3ヶ月毎にモニタリングしており、全スタッフ、主治医、関係職種にも課題と今後のケアのあり方を聞いてヘルパー会議で話し合い、ケアマネが現状に即した介護計画書の原案を作成し家族会議で話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や話された言葉、ケアの実践内容、気づきや工夫は介護記録や介護支援経過に記入している。また、申し送りやヘルパー会議で、職員間の情報共有しており、介護計画の見直しにも生かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを大切に取り組んでおり、必要なサービス事業者を導入したり、畑仕事をしたり日帰りで自宅に行ったりその時々生まれるニーズに対応出来るように取り組んでいます。コロナの影響で馴染みの場所に行くことはできなくなりました。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者に必要な地域資源を提供している。図書館に行ったり、地域の行事に参加し利用者の活力にもなっていた。地域の体操教室にも参加したいと話が出ていたが、今はコロナの影響で地域の行事に参加ができなくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が望むかかりつけ医に診て頂いている。入所前からの情報を持っており、信頼関係ができていますので、利用者も往診時に安心されてお話をされている。緊急時や専門外の医療にも情報提供がスムーズに行われ適切な医療が受けられている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がいるので、生活の中で些細な事や異変があった場合もすぐに対応できている。主治医や訪問看護との連携もできている。訪問看護とは24時間の電話連絡が出来るようになっており適切な看護が提供できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者の日々の様子をお伝えし、面会もこまめにして安心して治療に専念出来るように努めている。早期に退院出来るように主治医や看護師との面談や病状把握に努め、退院時のカンファレンスに参加している。病院主催の勉強会に参加している。コロナの為、今は開催されていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りができることをお伝えしている。また、利用者の変化に伴い、事業所でできることをお伝えし、ご家族にどこで最期を迎えたいかを確認している。終末期は利用者、ご家族の思いを尊重して医師、看護師と連携して、ご希望に添えるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成してある。事業所内で、情報交換をして対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練をしている。運営推進会議の時に反省会、報告会、災害等の対応について意見をもらったり、アドバイスを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや声掛けに気をつけている。利用者の人格を尊重し、尊敬し、プライバシーにも配慮して誇りを損ねないように言葉かけを心がけている。申し送りで社内規範を読み上げ、一人一人が意識を持てるように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との関係作りを良好にして、話しやすい環境を作っている。夜間やお風呂場は人に聞かれない為話やすいようで、場所や時間にも気をつけている。自己決定が難しい方には、選択性にしたり、表情をみて希望を表せるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、一人一人のペースを大切にしている。利用者から発信される思いを尊重して、希望に沿った生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者と相談してヘアスタイルを決めてカットさせて頂き、服は利用者を選び季節を感じて頂いている。化粧水をつけたりお化粧をしておしゃれを楽しんで頂いている。ご自分で難しい方は職員が離床後に顔周りをきれいにさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように、普段の食事の他にパンランチや手づくりおやつメニューと一緒に決めて、その方のできる力を活かしながら、下ごしらえや調理、食器洗いや拭きを行って頂き、楽しく召し上がって頂いている。コロナの影響で買い物は一緒にできていない。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の量は、毎日介護記録に記入している。その方の嚥下状態に合わせて水分にとろみをつけている。お茶が苦手な方にはその方が好きなものを提供している。夜間も水分が摂れるように居室にお茶を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしており、利用者の能力に応じて職員が介助している。その方の身体状態に応じて口腔ウエットを使用したり歯間ブラシ、ポリドントと使い分けている。嚥下状態に気を付けないといけない方には歯科医と連携している。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある方には、教えて頂きトイレまで介助している。夜間は希望に応じてポータブルトイレを利用している。尿意のない方には排泄時間を決めてトイレに座って頂き、排尿を促している。トイレに座ると気持ちがよく笑顔で排泄される時がある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつに乳製品を摂って頂いたり、食物繊維の多い食品を召し上がって頂いている。便秘になると、表情が陰しくなるので、便秘にならないように気をつけている。排泄時にはマッサージをして排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は基本月、水、土と決まっているが、利用者が希望した時、畑の後や、排泄の後等利用者の状態に合わせて入浴して頂いている。季節に合わせて足浴やシャワー浴も行っている。利用者同士で楽しい会話をしたり、利用者と職員との大切な時間になるように個々に沿った支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適に過ごして頂けるような環境作りをしている。安心して気持ちよく眠れるように温度調節をしたり利用者の話を傾聴したり、マッサージやハグをして心の安定を図り、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方されると、看護師が薬の内容を確認して、利用者の状態に応じて副作用をお伝えしている。飲み始めを記録して副作用が有るかを昼夜確認している。薬を服用される時は職員が名前、日にちを確認して手渡しし、飲み込みも確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が活躍したり、役割を持ってやりがいを感じて頂けるように、生活歴ややりたいこと、趣味や楽しみごとを聞いて支援している。趣味活動ややりたいことをお聞きして取り組むことで、喜びのある生活を送られている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の馴染みの場所やいきたいところをご家族と協力して外出していましたが、コロナの影響で外出ができなくなりました。今は、わおんの周りを散歩したり、ドライブをして季節を感じて頂いたり、気分転換が出来るように支援している。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の財布は職員が管理している。欲しいものは一緒に買い物に行っていたが、コロナの影響でできなくなりました。今は、欲しいものを職員が買いに行ったり、ビデオ通話で現物を見て頂き購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ができる方には職員が連絡してかけて頂いている。また、コロナの影響で面会が制限された時、顔を見て話したい方にはビデオ通話をして頂いている。絵手紙やお手紙を書いて頂きポストインまで一緒に行っている。ご家族からの返信も来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食後は利用者と一緒に運動目的で、モップ掛けをしている。わおん街道や庭には季節の花を一緒に生けている。壁には季節の作品を展示したり、利用者の描かれた作品を飾り来所者にも見て頂いている。コロナの影響で朝昼晩と居室とリビング等決めて消毒をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの前には、丸テーブルを置いて交流がしやすい空間にしている。ベランダ付近に畳を置いて日向ぼっこをしたり庭を見てくつろげる場所にしている。利用者が集中して絵を描いたりできる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物やプレゼント、ご家族の思い出の写真や手作りの作品が飾られており、居心地よく過ごせるような工夫をしている。ベッドの配置は利用者と決めて移乗や移動がしやすいように配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は利用者の身体状態に合わせてポータブルトイレを一人で使えるように居室内の配置を考えたり、安全に移動出来るように手すりの設置をしている。利用者のできることを生かして、安全に自立した生活が出来るように情報共有している。		